

## 人 口

大正9年の第1回国勢調査では1 336千人であつた本県人口は、昭和30年には2 205千人とこの35年間に87万人の増加を示した。これを大正9年＝100とした指数で見ると165となり、全国の161より上回つている。また昭和33年の総理府統計局の推計した本県人口は、2 259千人で全国11位となつている。

終戦直後急激に上昇した出生率は昭和22年「人口1000人に対し」35.0人に比べ昭和33年は17.6人と急激な減少を示している。一方死亡率も出生と同じ傾向にあり、昭和22年「人口1 000人に対し14.6人」昭和33年「人口1 000人に対し 8.4人」と半減している状況である。また戦後の社会移動の状態をみると本県は他県への転出者が多かつたがようやく昭和32年に入り1 963人、33年には2 308人と転入増（他県から本県へ転入—本県から他県へ転出）の傾向がみられるようになった。

このような本県への転入者を地域別にみると、関東地方よりの転入者が68%を占め、中部の8.2%、東北6.9%、その他の地方の順になつている。これは、企業誘置、住宅団地等の造成で社会増となつたもので、今後も自然増加（出生—死亡）と相まつて本県人口は増加の一途を辿るものと思われる。